



連絡先： アンプトジャパン
日本支社長
近藤 茂樹
アンプトジャパン合同会社
shigeki.kondoinfo@ampt.com

メディア担当
マーク・カンジョースキ
アンプとジャパン合同会社
info@ampt.com

ストリングオペティマイザの高い需要に応えるためアンプト日本支社を開設

ストリングオペティマイザがPVシステムの投資利益率を高めることができる

日本・横浜、2017年7月6日 — 電力変換技術の分野で世界のトップを走る [Ampt LLC](#) が、横浜で日本支社の開設を発表。あらゆるPVシステムに設置可能な同社のDCストリングオペティマイザの需要の高まりに応える。日本企業とのパートナーシップ提携や、日本でメガソーラー事業を展開するディベロッパーやEPC向けの製品を提供する。

Ampt LLC CEOのレベント・ガン氏は以下のように述べている。

「日本は太陽エネルギーの適用に関しては世界でも先進国です。Amptは日本市場のさらなる成長に貢献したいのです」と「Amptは日本市場に積極的にコミットするためにAmpt製品を日本市場に紹介し、日本国内に顧客サービスの基点を置くなど、日本のお客様のプロジェクトの成功に尽力します。」

Amptの主力製品のストリングオペティマイザは、二つの入力各PVストリングにそれぞれ最大出力点追尾トラッカー（MPPT）を設けるとともに、特許取得済みの電圧／電流の制限機能を設定することによって直流出力電力を最大限にするDC-DCコンバータである。各PVストリングはセントラルインバータまたはストリングインバータのいずれかによって設定された電圧で、最大電力を供給することが可能になる。オペティマイザの電流制限機能は、インバータを固定電圧または狭い範囲の電圧で動作させる間、インバータの入力電流制限を超えないようする。Amptの特許取得済みのストリングストレッチ®テクノロジーにより、システム設計者は、ストリング当たりのモジュール数を2倍に増やすことができBOS（Electrical Balance-Of-System）コンポーネントを最大で50%を削減できる。

Amptオペティマイザは新規PVシステムのコスト削減と性能向上を実現する、また、経年劣化等が原因でミスマッチ損失が生じている既設のPVシステムではその損失の最大60%をも回復できる。

セントラルインバータの交換が必要な古いシステムには、Amptオペティマイザを設置すると最新かつワット当たりの単価の低い最新のインバータが使用可能となる。例えば、750Vや600VのPVシステムで1000Vのインバータをフルパワーで稼働させることができる。

ストリングオペティマイザの使用により、DC/AC比率を2:1以上にシステムが可能となる。従来の1.2:1比率のシステムと比較すると最大70%の発電量増加が可能となる。

日本において、電力の安定供給と経済的な側面からもESS（電力貯蔵システム）の導入が進んでいる。Amptストリングオペティマイザを使用することによってマイクログリッドシステムからメガソーラーシステムまでDC側での蓄電池充電が可能となる。ストリングオペティマイザは直流側で蓄電池と接続されるので専用の追加充放電制御装置は不要となりコスト削減ができる。

アンプトジャパン日本支社長の近藤茂樹氏は以下のように述べている。

「パートナーやお客様からのPVシステムをより価値あるものになりたいというご要望に応えるために、Amptストリングオプティマイザの機能をより多く採用して頂くことができるようになりました。」「横浜にオフィスを開設したことによって顧客サービスを更に充実させお客様のご要望に応じてまいります。」

Ampt製品やその使い方、また初期プロジェクト設計から現地での設置サポートまで、プロジェクトを成功させるためにAmptができることについてのご質問は、info@ampt.comまで

Ampt LLC について

Ampt は、PV システムの設計方法を改善する革新的な電力変換技術と通信機能技術を有する。コロラド州フォートコリンズに本社を置き、北米、ヨーロッパ、日本、韓国、そしてアジア、オーストラリア、中東での販売とサポートを実施している。 Ampt は太陽光発電市場を拡大するために、HDPV アライアンスの戦略的パートナーとともに、太陽エネルギーのコストを削減し、プロジェクトの ROI を改善する装置を提供する。

###